

富士小学校及び弥生小学校再編にかかる説明会等での主な意見等に対する 教育委員会の考え方について（まとめ）

区 分	意見等の概要	教育委員会の考え方
①教育環境	・子どもたちの心のケア、いじめへの懸念。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの心のケアについては、非常に大切である。 ・両校の交流等を行うなど、子どもたちの負担を軽減し、心のケアに万全を期す。（教職員の加配やスクールカウンセラーの配置時間の拡大、スクールソーシャルワーカーとの連携等） ・教員が増え、多面的に常に子どもたちを見ることにより、いじめやトラブルの予防に努め、複数の教員で対応していく。
	・通学について（通学路の安全・安心な整備、見守り体制、子どもの負担の配慮等）	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯・防犯カメラの設置や見守りの体制、通学路の整備等、安全の確保に向け、想定する通学路を点検するなど、必要な対応をまとめ、統合決定後、準備会で、さらに具体的に検討していく。 ・新校区となる住民の皆さまのご理解、ご協力も得ながら、安全確保に努めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・再編により、より良い教育環境になることを願っている。 ・三田の（小中一貫教育の）トップランナーをめざして、地域の住民として協力していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの、保護者、地域の皆さまのご理解を得て、進めていきたいと考えており、引き続き、ご支援、ご協力をお願いしたい。 ・通学をはじめ学校の安全対策等で、見守り体制などで是非協力いただきたい。
	・小中一貫教育について（小中一貫も良いと思う、もっと小中一貫のメリットや子どもたちに還元できることを考えてほしい、小中9年間同じとなる（変化がない）、メリットがわかりにくい。など）	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫のメリットとして、教員同士の連携、相互理解のもと、教育を進めていくことが、子どもたちに良い影響を与えると考えている。 ・「富士中学校」と「新しく創設する小学校」で、1中1小体制となるメリットを生かし、市内でもトップランナーとして推進していく。
②新しい学校の場所（教育委員会の考え方）	・狭間小に通った方が近くて安全。中学校区を超えた再編をしない前提では賛成しにくい。安全に通える弥生小があるため家も購入している。学校区と自治会の整合を図る必要があるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・狭間小の方が近い地域があることは承知しているが、学校区と自治区は一致しているのが望ましいことから（三田市立学校園のあり方審議会答申）、これを基本として考えている。 ・学校区は自治区を単位として、通学すべき学校を定めており、1つの自治会の中で通学する学校が異なることは望ましくないと考えている。また、本市では地域と学校の連携を大切にしており、校区内の各地域一体としてご支援いただければと考えており、現在の小学校区を基本として学校の再編を検討していく。

区 分	意見等の概要	教育委員会の考え方
②新しい学校の場所(教育委員会の考え方)(つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・富士中学校は適正規模ではない。中学校再編を先に行い、小学校は選択できるようにしてほしい。 ・フラワーの小中学校の最終形をどのように考えているのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・弥生から学校をなくすことはデメリット、子育て世代の意見を理解してない。 <ul style="list-style-type: none"> ・資料提示希望：両校併記した比較（メリット、デメリット）、将来の人口重心 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に課題となっている中学校の部活動については地域移行の動きもあり、一定動向を見ていく必要がある。 ・現在の推計は転入転出を見込んでいないが、過去の傾向から就学前時点での転入も一部見込まれ、さらに「フラワータウンの再生」では「若年層・子育て層の移住・定住」を大きな目標として取り組んでいることから、実際には、現状の見込みより多い児童生徒数になると見込んでいる。 ・まちびらき当初のような集中した転入は見込めないが、児童生徒数の状況等を注視し、状況を見ながら、より良い教育環境を検討していく必要があると考えている。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数が少ないことで、居住地としての選択からはずしたとの意見もあった。 ・学校の再編統合は、地域から学校がなくなるのではなく、当該地域を校区とした新たな学校ができることであり、子どもたちにとって、より教育環境が充実した学校へ通学できる地域として、若年層、子育て層の移住定住地の選択の際、魅力につながると考えている。 <p>※1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会の中でも同様の意見をいただいております、両校併記の資料も提示し進めていく。 ・R11以降は、まだ生まれていない子どもの推計であり、今後の住み替えや出生数により人口重心は変動する。富士小を新しい学校の場所とした理由は、人口重心に加え、新しい校区における通学距離、学校の施設・設備の状況、小中一貫教育を行うための小中の距離も勘案した結果である。
③会のもち方	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の役割は、意見の取りまとめまでで、実際の再編に向けた準備の会ではないということか。 <ul style="list-style-type: none"> ・決定の判断はどのようにするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会では、再編の是非や時期に関することも含め、地域の意見を取りまとめていただく予定としている。実際の再編に向けた準備会は、統合決定後に予定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・説明会で出た意見は取りまとめて地域協議会に報告することとしており、地域協議会では、説明会での意見等も踏まえ「再編の是非、時期、再編にあたって留意する事項」など、地域としての意見を取りまとめていただく予定である。それを受け、市の総合教育会議で今後の方針等について協議を行う予定としている。

区 分	意見等の概要	教育委員会の考え方
③会のもち方 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会の周知方法について（不十分ではないか） 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月13日開催の説明会は5月号の市広報でも周知するとともに、フラワータウン内の就学前施設等へ依頼し、対象校区の保護者へのチラシ配布を行った。
④まちづくり、 跡地活用	<ul style="list-style-type: none"> ・弥生から小学校がなくなると子どもがいなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※1に同じ
	<ul style="list-style-type: none"> ・将来推計について(統合しても1クラスとなる学年があるのではないか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模の課題が続くことになることから、できるだけその課題を解消するために再編が必要であるという考えは変わらない。 ・現在の推計より、1つの学年で数人子どもが増えれば安定的に2クラスを維持できる。子育て世代が転入してくる環境を作り、好循環を作っていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯に興味を持って居住地として選んでもらうための施策を。(フラワータウンの人口減に対する市の取り組み) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代へのアプローチについては、フラワータウンの再生の取り組みが動き出しており、子育て世代の転入促進も重点的な項目に挙げ進めている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・廃校になった場合の地域の安全性、避難所としての役割に不安を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見については防災担当部署と情報共有しており、今後、再編協議会の進捗状況を見ながら、跡地の活用も含めて、一定整理し、地域の皆さんにもお伝えしながら、検討を進めてく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な跡地の活用について 	<ul style="list-style-type: none"> ・跡地の活用は、フラワータウン全体の活性化につながるような活用が重要になると考えている。
⑤開校時期、スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・再編に向けた具体的な日程、スケジュールについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会で「再編の是非」、「時期」も含めて検討をいただくこととしている。2年間のうちに、「是」か「非」の結論を得たいと考えている。「是」となれば準備期間として1年度間は必要と考えている。 ・今年度の秋か冬に話がまとまれば、令和6年度の1年度間をまたいで、令和7年の4月開校ということも考えられる。ただし、これは例えの話である。
⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合は決定事項か。多数の住民から同意が得られなかった場合の対応は。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の案は、令和5年2月13日に開催した地域協議会(全体会)で市教育委員会より提案したものであり、現時点で決定事項ではない。今後、地域協議会での地域の意見の取りまとめを踏まえ、最終、市として判断していく。 ・学校再編は保護者、住民の皆さまの一定理解を得て進めていくべきと考えており、1人でも多くの理解を得て、進めていきたいと考えている。

区 分	意見等の概要	教育委員会の考え方
⑥その他(つづき)	・ 検討、協議状況等を随時周知願いたい。	・ 地域協議会の日程、資料等はホームページに掲載するとともに、学校再編の取組状況等については、「広報さんだ」でもお知らせし、積極的な情報発信に努めていく。
	・ 施設設備の状況について(教室の増設、増築を新たに行う計画の有無等)	・ 増築は特に必要とは考えていないが、建築から30年以上経過しており改修が必要になるため、時期を見て実施する。統合に関して最低必要な工事があれば実施する。
	・ 2校維持と1校廃校のコスト比較の資料も出して欲しい。	・ 教育委員会としては、子どもたちにとって、どのような環境が良いのかというところを中心に考えている。 ・ 運営コストが全く関係ないとは考えていないが、まずは子どもの学ぶ環境を第一にご意見をいただきたい。 ・ 学校運営コストは2校を維持するより1校で運営する方が効率的であり、これら財源を再編後の教育活動に活用することを検討し、さらに充実した学校運営をめざす。
	・ 市がリーダーシップをとって欲しい。	・ 今回、市教育委員会として、子どもの教育環境を第一に考え、提案しているが、保護者、地域の皆さまと十分協議の上、1人でも多くのご理解とご協力を得て進めていきたいと考えている。 ・ このような考えのもと、教育委員会がリーダーシップ、責任をもってよりよい教育環境の実現に向け進めていきたいと考えている。
	・ 中学校の再編が必要(中学校を再編した場合1中1小による小中一貫教育と矛盾しないか。)	・ 1中学校1小学校で培ったノウハウを蓄積し、全市的に小中一貫教育を進める構想を持っている。仮に中学校がこの先、再編する時期がきても、培った小中一貫教育の進め方やノウハウを引き継ぎ、取り組んでいく。 ・ 中学校2校については、今後の生徒数の推移、状況等を注視しながら、統合が必要な時期が来るようであれば、適時に子どもたちの教育に支障がないよう対応していきたい。
	・ 教員の負担について(統合により増加するのではないか)	・ 単学級の場合と比べて、複数の学級が設置された場合、校務の分担や、学年の担任同士の相互支援等により、教員の負担軽減につながる。
	・ 他校の再編の取り組みの状況について(もっと小規模な学校があるのに不公平)	・ 現在、検討対象となる学校の範囲をエリアごとに示し、学校の小規模化に伴う課題や望ましい教育環境などについて、意見交換等を順次実施している。
	・ 統合後の放課後児童クラブの確保について	・ 統合したその学校でも放課後児童クラブは継続して行っていく。 ・ 預かり時間は、市の制度の中でこれまでと同様に実施していく。